

外観は、日本の伝統的な大屋根で軒の深い外観を採用し、存在感ある屋根から水平ラインを強調する現代的解釈を用いた。1階は閉じた中で膨らませ、2階は閉じながら外まで膨らませるメタモルフォーゼした空間の提案である。

1 立地と風土(1階)

1階は、内向的な空間。障子を使って土間とリビングの2つの領域を柔軟に仕切れる可変空間。雪に閉ざされる間、有効活用する雪国の土間空間を用いて空間に膨らみを持たせた。



空間入ってリビングを眺める。土間に囲い込む土間空間がリビングとの親和性を高めている。冬場は雪に閉ざされがちな地域でも、半外部的な土間によって内部空間を膨らませてくれる。

土間空間

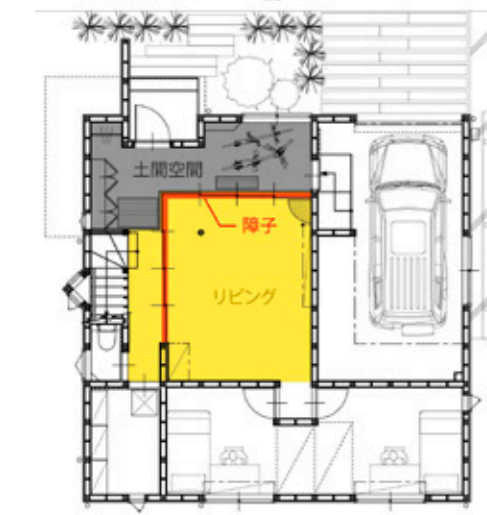
1階は地面との接地性を考え外部空間と連続する計画もあるが、その接地性ゆえに外部からの視線にさらされやすい部分に重点を置き、プライバシー性を上げるために外部から視線が入りづらい閉ざされた空間になっている。

雪に閉ざされる冬季、半外部の土間空間を取り込み、閉ざされながらも空間に膨らみを持たせる風土の踏襲する。

内部に土間空間とリビング空間の二つの領域をつくることで、閉ざされながらも内部で膨らみをもつ空間を目指した。

伸縮装置

リビングに回り込むようにL型に配置した土間空間はリビングと土間空間の親和性を高めている。また8枚の障子の開閉によって、その親和性はより自由に変化させることができる。



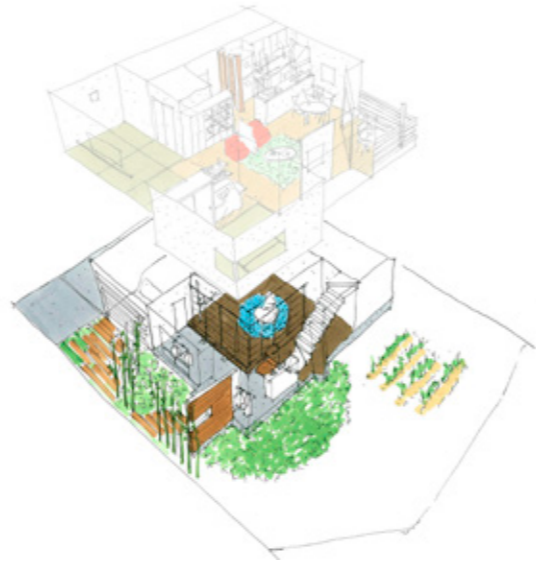
開放



土間からリビングを眺める



リビングから土間を眺める



2 Closed Expand(2階)

2階は、外向的な空間。深い軒を使って南西にある公園に向かって視線が抜ける。プランは斜めに空間を連続させ、内部から外部まで空間を膨らませた。



リビングからベランダ越しに公園まで視線が抜けていく。天井は方形屋根が内部まで表れたかたちになっている。

Closed expand

日本家屋伝統の田の字プランは柔軟な動線によるニュートラルな空間である。ここでは「動線の広がり」から「視線の広がり」へ求心性を持たせ放射状に連続する現代的解釈の提案。

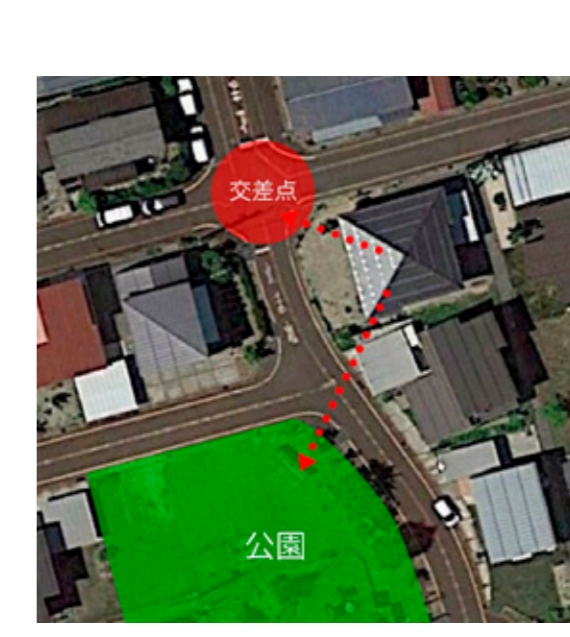
一方2階は道路を挟んで南西にある公園とお隣の距離が伸びプライバシーを保ちやすい北西の交差点に向かって視線が抜けるようにした。かつ2階プラン上、斜めに空間を連続させ内部から外まで空間を膨らませた。

1階は閉じた中で膨らませ、2階は閉じながら外まで膨らませる。

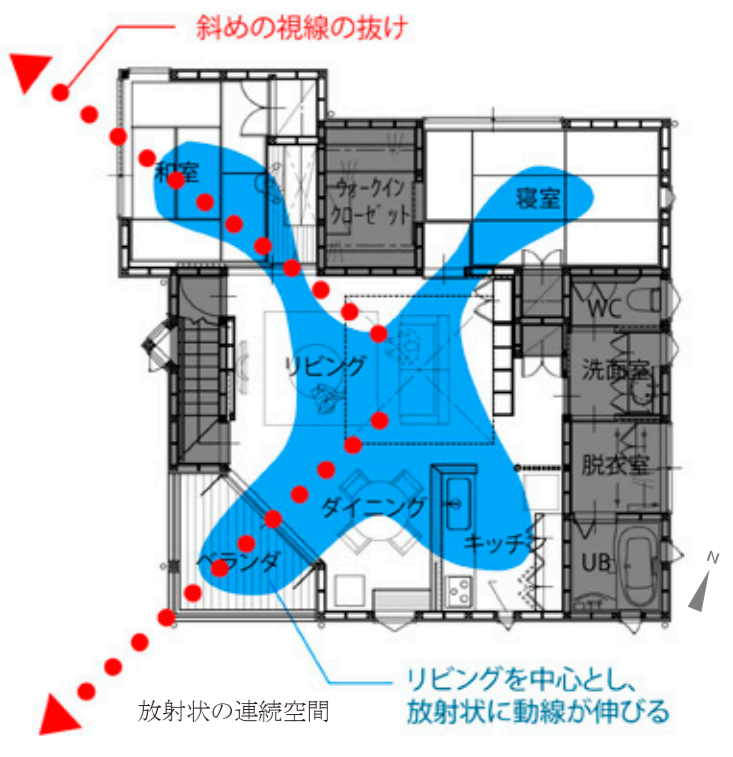


3つのデザイン手法

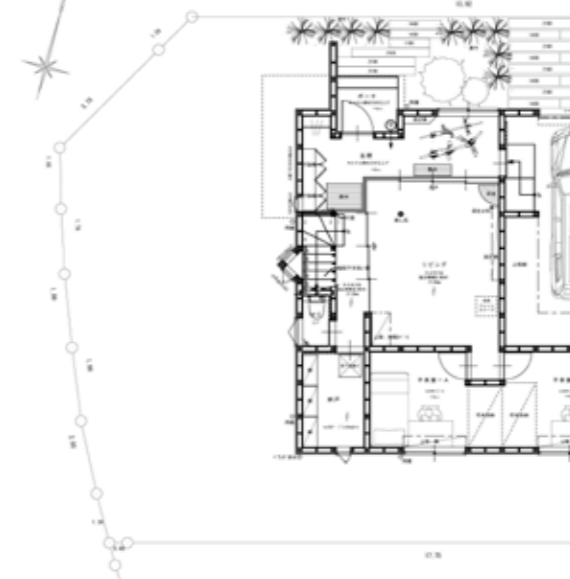
屋根は方形になっており、軒のラインが水平ラインを強調している。また、スクエアな間取りが2層分立ち上がった基本ボリュームに、2方向キャンチで飛び出す2階和室と階段横の平面的に三角に突き出した壁が「足す」デザイン。2階ベランダは基本ボリュームに対してヴェイドの「引く」デザイン。板貼り壁が玄関ポーチまで入り込み「貫入」するデザイン。軒ラインの統一感の中に3つのデザイン手法を用いた凹凸ある表情ができた。



公園と交差点の立地関係



斜めの視線の抜け
リビングを中心とし、放射状に動線が伸びる



1階平面図



2階平面図

敷地	266.33㎡
1階	93.40㎡
2階	83.01㎡
延面積	176.41㎡
(車庫等床面積)	(34.68㎡)

Metamorphose

小さな現代住宅の内に息づくメタモルフォーゼした日本古来からの空間提案

